

正しく動き、美しくつながり、強く創り出す「未来を生き抜く力」を育成する学校



「たい」のあられる時津小



↑こちらからも↑

令和5年 7月12日(水) 発行人：校長 森内 秀学

読解力 育成中です

1年生の算数の問題です。

かあどを5まいもっています。2まいあげると のこりはなんまいになりますか。

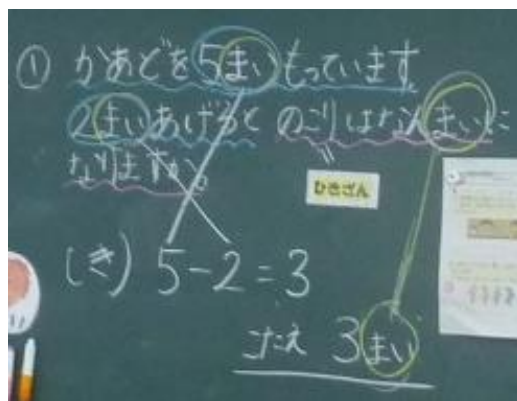
子ども：分かった！5ひく2は3！

先生：なんで？

子ども：カードを5枚持ってますよね。2まい「あげると」だから、引き算です。

先生：なるほど。あげたから引き算なんだね。

そんなやり取りが目につかぶような右の板書。言葉と式と単位が、線で結ばれたり、丸く囲まれたりしているのがお分かりでしょう。また、よく見ると、分かっていることと尋ねていることと単位が、青、赤、黄色のチョークで色分けされていることもお気づきでしょうか。



実はこの工夫、算数の授業で行っている読解力向上に向けた指導なのです。読解力とは、文章を読んで、その意味や内容を理解する力のことですが、算数では、こうして注意すべきところに印をつけたり、関係したもの同士を結びつけたりすることで、読み誤りを防ぐ癖をつけさせています。

ここをおろそかにしていると、既に2年生の段階で、次のような問題で引っかかります。

あめをもっていました。そのうちの5こを食べたので、のこりは13こになりました。

はじめは何こありましたか。

読み誤りをする子は、こう答えます「食べたから引き算！13ひく5で8！」やりかねませんよね。まず「食べた」という言葉から引き算だと思い込みます。そして、5ひく13はできないので、大きい方の13から5を引きます。状況を理解していないのです。

このようなミスを防ぐには、家庭でも、「おふろ」「ごはん」という単語だけの会話ではなく、「おふろがわいた」「妹に鍵を渡す」など、主語と動詞と目的語を使い、見たことを短い文で説明する習慣をつけると、効果があります。ぜひ、ご家庭でも読解力の向上を。



まるでオブジェ！～図書ボランティア ひまわり～

ふと図書館をのぞくと、入口右の壁に、左の写真のようなオブジェが飾ってありました。なぜ、掲示物ではなく「オブジェ」と書いたかということ、一つ一つのものが、とても立体的に作られているからです。最近、子どもたちは「怖いお話シリーズ」の本が大好きなのだそうですが、こんなオブジェがあると、一層、借りに来る子どもが増えそうですね。